

自己評価・学校関係者評価報告書

平成29年度

平成29年 4月 1日から

平成30年 3月31日まで

平成29年度 自己評価書

～教職員研修 および「学校教育についてのアンケート」結果をもとに～

中央学園高等専修学校

1. 本校の教育目標

「一人ひとりの命輝く教育を目指して」

- ・「愛と誠」の建学の精神を基盤とし、国民として社会生活が円満にできるために必要な知識と技術を習得させ、健康で豊かな心情を持ち、時代の要請に応え得る人材を育成する。

2. 本年度、重点的に取り組む目標及び計画

- ・基礎学力の充実ならびに専門技術の熟達と各種検定等への挑戦
- ・規則正しい生活の確立
- ・就学指導の強化
- ・保護者との密接な連携
- ・就職・進学対策および五ヶ年一貫教育の浸透
- ・募集活動の強化

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
学習指導と教科指導	<p>①学力テスト、定期テスト等の成績を参考にして個々の生徒の基礎学力、能力等を十分に把握した指導につとめ学力の向上に努力させる。</p> <p>②常に技術の熟達を目指し、習得した技術の検定をできるだけ多く受検させ、より多くの検定資格を取得できるよう努力させる。</p>
生徒指導と生活指導	<p>①校則指導を徹底し、規則正しい生活習慣を身につかせ、楽しい学園生活を送れるよう努力する。</p> <p>②各学年での指導を通して、個々の生徒を細かく熟知し、生徒一人ひとりに適切な指導を考え、学校全般の中で徹底的な取り組みができるような態度を育成する。</p>

人権教育	<p>①「いじめ」をはじめとする、いかなる人権侵害も許さない意識を育てる。</p> <p>②支え助け合う生徒集団の育成に努める。</p>
就学指導	<p>①入学した一人ひとりの生徒の特性を理解し、三ヶ年の履修単位を完全に修得させ卒業させることを目標として教科指導、技術指導にあたる。</p> <p>②問題行動→呼び出し→注意→不登校→退学に至らないように細かい指導に配慮する。</p> <p>③常に生徒の立場にたって指導する。退学が予想される生徒については学年会議で指導方法について徹底的に協議を重ね、家庭訪問等連絡を密にし最大限の努力をする。</p>
保護者との連携	<p>①電話や文書、中学校との連携、家庭訪問などケースバイケースによって密接な連絡をとりながら生徒の個性の伸長を図るように努める。</p> <p>②遅刻、早退、欠席、不登校等、個々の生徒について実態を十分把握し、保護者との連携を密にし、その対応に際しては十分配慮する。</p>
進路指導	<p>①入学した生徒が三年間の学習の中で得た知識・技術が十分いかされ、生徒の適正や希望に合った進路を選択させる。</p> <p>②五ヶ年一貫教育として、中央 IT ビジネス専門学校へ内部進学する生徒については、近畿大学短期大学部との併修により専門士・短期大学士の資格を修得できるよう指導する。</p>
募集活動	<p>① 中学校とのつながりを大切にし、定期的に訪問を重ね、本校の内容・特色を丁寧に説明し、在校生の状況を報告する。</p> <p>② 生徒が入学し、成長し、卒業することが、更なる募集につながることを認識し、一人ひとりの学校生活の充実に全力を挙げる。</p> <p>③ オープンスクール・体験入学・学校説明会をできるだけ数多く開催し、本校をより良く理解してもらえるよう、中身の充実と真摯な対応を心掛ける。</p>

4. 学校教育自己診断(教職員用)集計結果

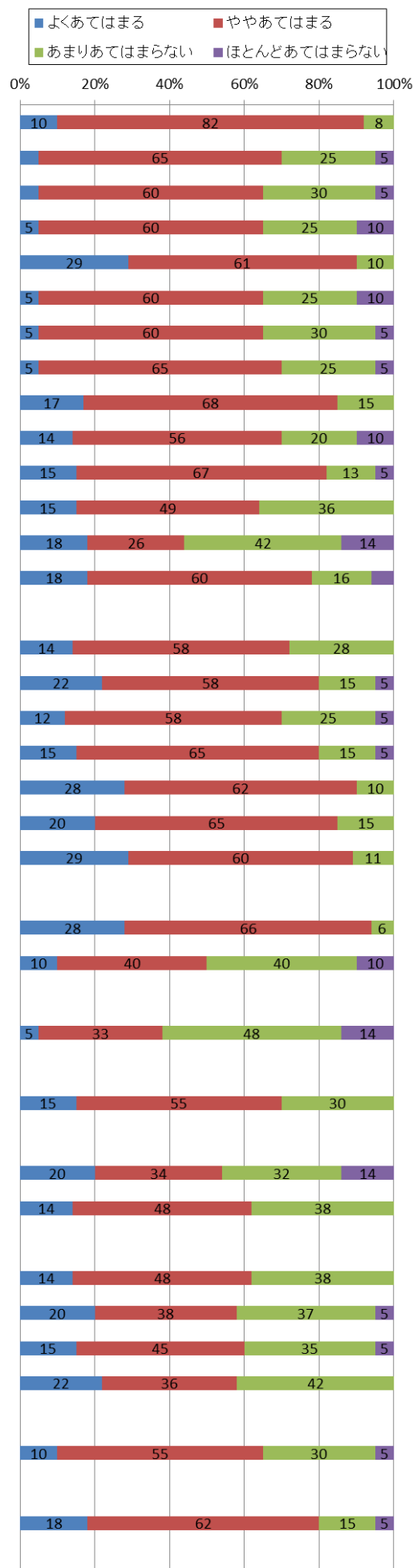
中央学園高等専修学校
中央ITビジネス専門学校

平成30年3月実施

グラフの数字は

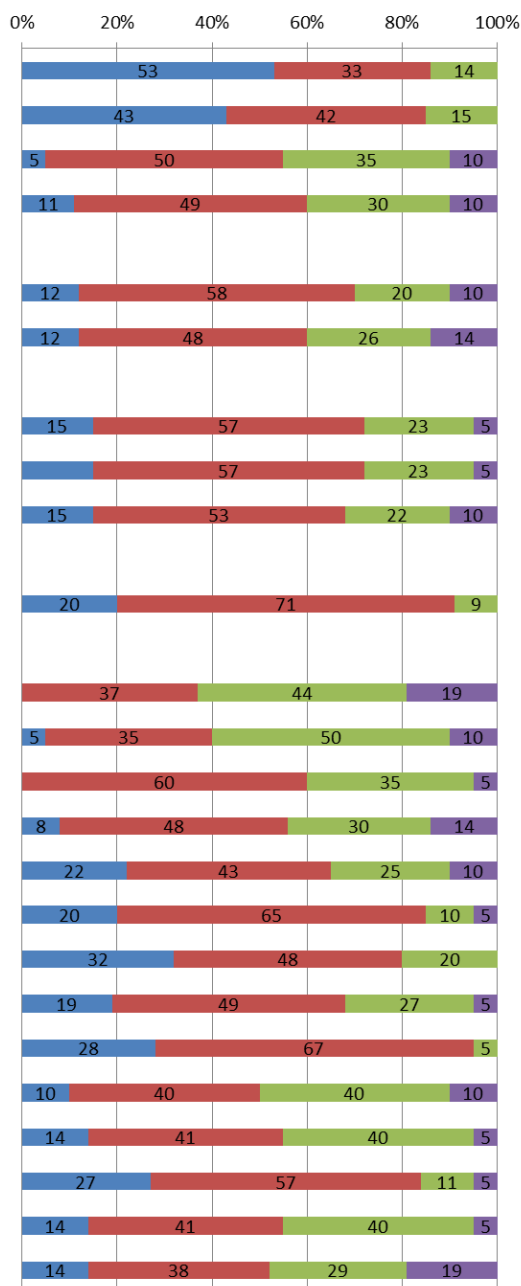
I 教育活動に関するもの

- 1 学校の理念・目的・育成人材像が定められている。
- 2 学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。
- 3 社会経済のニーズ等をふまえた教育目標、育成人材像が定められている。
- 4 各年度の教育計画の作成に当たって、教職員で話し合っている。
- 5 この学校の教育活動(職業教育その他)には、他の学校にない特色がある。
- 6 教育課程の編成にあたって、学習指導要領の趣旨が生かされている。
- 7 教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。
- 8 教職員は学生・生徒の意見をよく聞いている。
- 9 学校は、教育活動全般について、学生・生徒や保護者の願いに応えている。
- 10 年間の学習指導計画について、各学科・各教科で話し合っている。
- 11 各学科・各教科において、教材の精選・工夫を行っている。
- 12 指導内容について、他の学科や教科の担当者と話し合う機会がある。
- 13 思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている。
- 14 この学校では、到達度の低い学生・生徒に対する学習指導について、全校的改題として取り組んでいる。
- 15 学生・生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している。
- 16 成績・評価・単位認定・進級・卒業判定の基準が明確にされている。
- 17 この学校では、カウンセリングマインドを取り入れた生活指導を行っている。
- 18 資格等の取得に関する指導体制、教育課程の中での体系的な位置づけがある。
- 19 学生・生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている。
- 20 様々な問題行動の防止のための早期指導に学校全体で取り組んでいる。
- 21 教育相談体制が整備されており、学生・生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる。
- 22 この学校では、生活指導において、家庭との連携ができています。
- 23 校則が、学生・生徒の実態や人権尊重の立場から適切であるかについて、学生・生徒や教職員の間で話し合う機会がある。
- 24 この学校では、学生・生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、系統的なキャリア教育を行っている。
- 25 学生・生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている。
- 26 インターンシップ等実践的な職業教育が体系的に位置づけられている。
- 27 ホームルーム活動を主とした学級経営の改善に、学級や学年、学校全体で取り組んでいる。
- 28 学校行事が学生・生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている。
- 29 学校として、部活動やサークル活動の活性化について工夫している。
- 30 この学校は、情報リテラシーや情報モラルを高める教育に取り組んでいる。
- 31 教育活動において、学生・生徒に社会規範や市民道徳を守る意識が育まれる機会をつくるよう配慮している。
- 32 教育活動において、学生・生徒が命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会をつくるよう配慮している。
- 33 体罰やセクシュアル・ハラスメント、いじめの防止をはじめ、人権尊重の姿勢にもとづいた生活指導が行われている。



II 学校経営に関するもの

- 34 校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている。
- 35 学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている。
- 36 学校運営に教職員の意見が反映されている。
- 37 教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある。
- 38 各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。
- 39 職員会議をはじめ各種会議が、教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している。
- 40 会議の内容が教育活動や学校運営に生かされている。
- 41 教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。
- 42 日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談し合えるような職場の人間関係ができています。
- 43 事故、事件、災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、役割分担が明確化されている。
- 44 この学校では、清掃がいきとどいている。
- 45 施設・設備の拡充は、長期的見通しに立って計画されている。
- 46 施設・設備について日常的に点検や管理が行われている。
- 47 各教科の備品や教材教具が活用されている。
- 48 コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている。
- 49 校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている。
- 50 校内研修は、教育実践に役立つような内容となっている。
- 51 初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている。
- 52 学校内で他の教員の授業を見学する機会がある。
- 53 教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。
- 54 研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている。
- 55 指導要録の記入、点検が年度内に適正に行われている。
- 56 学生・生徒の個人情報に関する管理システムが確立されている。
- 57 情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている。



III 学校教育改善のための提案

- ※ 今後、新カリキュラムに移行し、アクティブラーニングの実践などに対する教員の興味関心を共有する必要がある。
- ※ 教職員間のコミュニケーションを強化し、全員が同じ方向を向いて仕事ができるとよい。
- ※ 教職員の指導をしっかりとくれ、新任の先生を育てていける管理職が必要である。
- ※ 教務部、生徒指導部を複数に分けてはどうか。

5. 学校教育自己診断(教職員用)結果と考察

1. 学校経営に関して

学校経営に関しては、学校長のリーダーシップの下、学校の理念・目的が定められ、学習指導要領の趣旨を踏まえ、職業教育等、他の学校にはない特色ある学校づくりに努めていると教員は思っている。(1.3.5.6.34.35)

これらの具現化に向けて、教職員の意見が概ね反映されていると思っており、校内人事や校務分掌の分担について改善が図られ半数以上のものが意欲的に取り組んでいると感じている。(36.37)

校内の各種会議の内容は、教育活動や学校運営に活かされているが、全職員による職員会議の進め方には工夫が必要と感じている(39.40.41)。また、教職員同士も、信頼関係に基づいて教育活動を展開していると感じているが、ささいなことでも気軽に相談できるような関係づくりをさらに進めていくことが必要である(42)。

成績、評価、単位認定、進級、卒業判定基準の明確化や資格取得に関する体系的な位置づけが確立している(16,18)。(また、今年度は生徒が意欲的に学校生活を送れるようにこれらの教務規定の見直しを進めているところである)

2. 教科指導に関して

教科指導においては、指導内容や方法について到達度の低い生徒に対する学習指導や、生徒の実態・意欲に応じて教材の精選・工夫を行っている(10.11)。しかし、他の学科や教科担当者同士が話し合う機会を増やし、思考力を重視する学習方法や、習熟度別学習を取り入れた授業の工夫は今後も継続的な課題としてある(13.14.15)。

3. 生徒指導に関して

生徒指導については、保護者との連携を図りながら、いじめの防止をはじめ、様々な問題行動を防止するため、学校全体で早期指導に取り組んでいる(19.20.21.22)。

しかし、校則については固定的に考えるのではなく、今後も様々な観点から適切であるかどうかについて話し合う必要性を感じている(23)。また、情報教育については、生徒の実態を踏まえ、そのモラルを高める教育が一層必要である(30)。人権尊重の姿勢に基づいた生徒指導を行っていると感じている教職員が高い割合で答えていることは評価できる(33)。

4. 進路指導に関して

進路指導は、就職ガイダンス等の実施によって、生徒一人ひとりの興味・関心、適性に応じたきめ細かな職業教育指導をしていると感じている割合が高くなってきている(26)。しかし、今後さらに系統的、実践的なキャリア教育を進めていくことが重要である(24)。

5. 道徳の指導に関して

道徳の時間は設定されていないが、命の大切さや社会のルールを守る指導の機会をさらに多く設ける必要があると教職員は思っている(31,32)。今後、「ロングホームルーム」の時間などを活用して道徳的実践力の向上をめざす取組みが大切である。

6. 特別活動に関して

特別活動の内、ホームルーム活動等、学級経営の改善に学校全体で取り組んでいる(27)。また、(28)の「学校行事」に関して昨年度より約 10p 下がっており、生徒にとって、より魅力あるものとなるよう行事の精選や工夫改善が必要である。

7. 部活動に関して

部活動については、放課後も活発な学園をめざして活動しているところである。しかし、生徒の入部率も決して高くなく、まだまだ低調ではあるが、昨年度からは一定改善が図られており(29)、部活動が生徒にとって興味・関心を示す多様な選択肢があるのかどうか、また、よりきめの細かな日常の指導ができているのかなど今後検討の必要がある。

8. 研修について

研修については、ここ数年、担当者を中心に校内職員研修の充実に向けて研究授業の実施、外部講師を招聘した研修会など様々な工夫を重ねてきた。そのことが教員にも実感できるようで、教育実践に役立つ内容だとほとんどの教員が答えている(49,50)。特に初任者の育成や他の教員の授業を見学する機会が増えたと捉えられている(51,52)。

9. 教育環境に関して

教育活動に係る物的環境のうち施設・設備については、教職員には長期的な見通しを感じ取ることができていない(45)。教科の備品や教材・教具・ICT機器の活用については努力の余地がある(47)。本校の清掃活動は生徒と教職員が共に行って

いるが、校内の清掃は行き届いていると言いき難い現状がある(44)。清掃活動の意義や取り組む姿勢がより良くなるよう指導を重ね、安全で清潔な環境づくりに努めることが重要である。

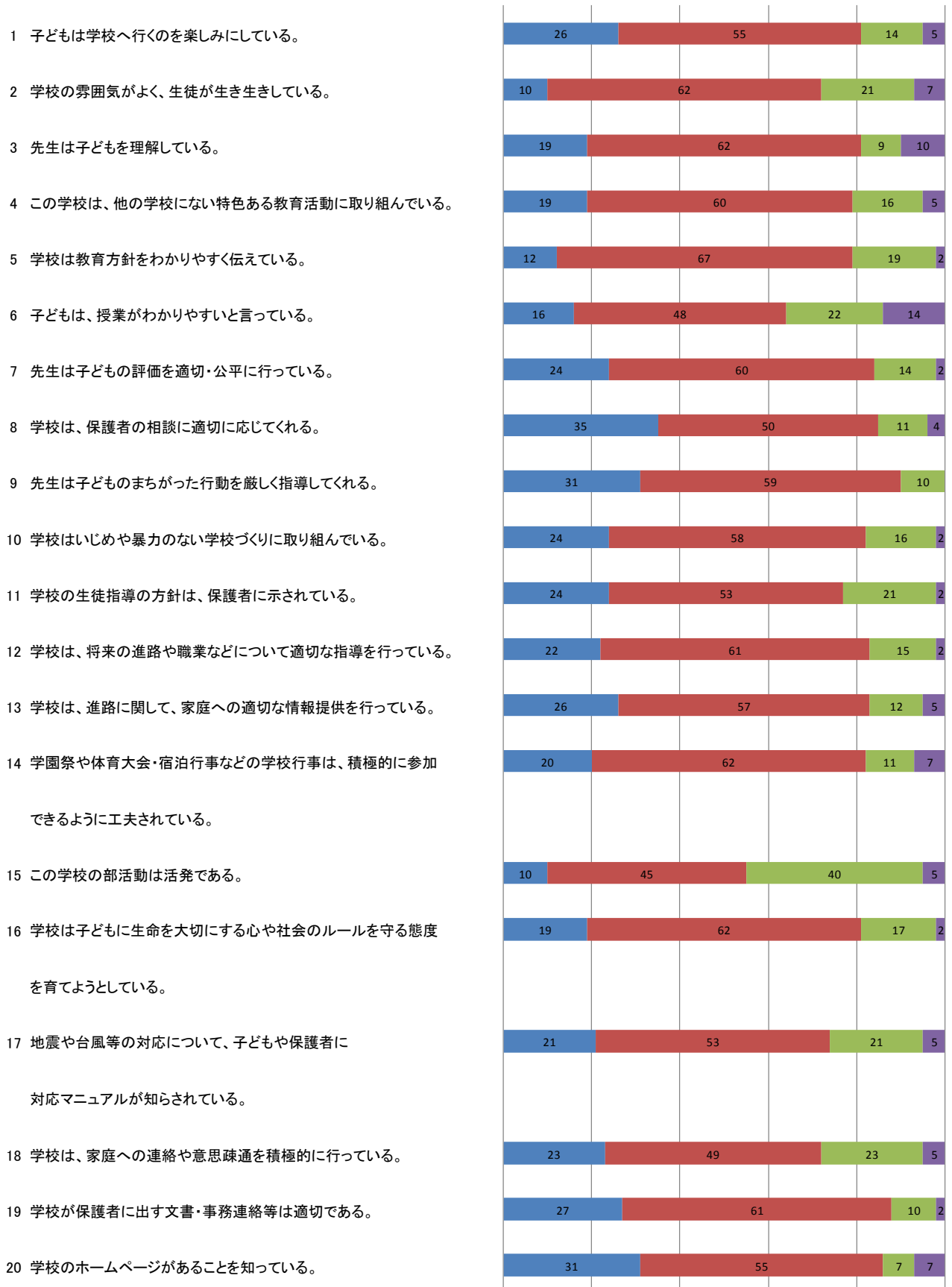
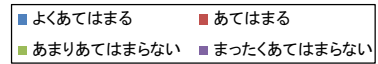
以上、今後の課題（基礎学力の向上・特別活動の活性化等）はあるものの、今年度も教育活動全般について生徒や保護者の願いに概ね応えていると自己評価していることが伺える。

6. 学校教育自己診断(保護者用)集計結果

中央学園高等専修学校

平成30年3月実施

グラフの数字は%



7. 学校教育自己診断(保護者用)結果と考察

1. 教育活動に関するもの

学校の教育方針や特色ある教育活動については、今年度も引き続いて保護者から概ね理解を得ている(4.5)。

(1)の「子どもが学校に行くのを楽しみにしている」の項目に**84%**の保護者が肯定的で一昨年および昨年度より**15point**以上増えていることは特筆すべきある。本校の課題である「就学指導」がこの数字をバネに飛躍的な成果が上がっていくことが期待される。(2)の「学校の雰囲気がよく生徒が生き生きしている」は昨年より**3point**下がってはいるが一昨年と比較すると評価は高い。これは、今年度も「いじめや暴力のない学校づくり」(9.10)、「生命を大切にする心や社会のルールを守る態度の育成」(16)、「学園祭や体育大会・宿泊行事などの学校行事は生徒が参加しできる工夫」(14)などの取り組みが反映された結果であると考えられる。

- ① **授業**については、生徒の目線からの工夫を加えながら、「わかりやすい授業」への取り組みが今後とも必要である(6)。また、評価については適切・公平だと生徒は感じている(7)。
- ② **生徒指導**については、「生徒指導の方針が示され、教員が生徒をよく理解している」と保護者は感じている(3.11)。また、「学校は保護者からの相談に適切に応じてくれる」とほとんどの保護者が答えている(8)。
- ③ **進路指導**については、年度を重ねるごとに「適切な情報提供や指導が行われている」と保護者は認識している(12.13)。就職担当教員による就職ガイダンスの充実によるものと考えられ、今後共一層の充実を図っていきたい。また、ITビジネス専門学校への内部進学者が年毎に増えていることも進路指導の成果だと考えられる(昨年度33人、今年度 人)。
- ④ **行事**について、「学園祭や体育大会・宿泊行事などの学校行事は生徒が参加しやすいように工夫されている」(14)という評価が昨年度よりも若干下がってはいるが、高い評価を得ている。これは学園祭実行委員会や運営委員会などで生徒の意見を取り入れたり、生徒が主体となって運営にあたりたりしてきた成果であると考えられる。
- ⑤ **道徳の時間**は設定されていないが、様々な機会を捉えて「規範意識の醸成や生命を大切にする態度を育てようとしている」と評価されている(16)。生徒の実態を踏まえ、あらゆる機会を捉えて取組を進めていきたい。
- ⑥ **部活動の活性化**については年々上昇しており(15)、放課後も活発な学園をめざし生徒の活動を一層支援していくことが求められる。

2. 学校経営に関するもの

学校が保護者に出す文書・事務連絡は適切であり、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っていると、ほとんどの保護者が思っている(18.19)。地震や台風などへの対応についてのマニュアルはほぼ周知されているが、繰り返して知らせることが重要である(17)。学校のホームページがあることを知らない保護者が未だ 15%(20)。各家庭の事情もあると思われるが、何らかの方法で周知を図っていく必要がある。

今年度と昨年度の結果を比較すると、ほとんどの項目において保護者からより肯定的な回答が得られた。特に、「生徒が学校へ行くのをたのしみにしている(1)」と高く評価されたことは「一人ひとりの生命輝く教育」を目指し、「面倒見の良い学校」を標榜している本校にとってたいへん喜ばしいことである。今後とも生徒、保護者に信頼される学校としてきめ細かな教育活動を展開していきたい。

平成29年度 学校関係者評価書

中央学園高等専修学校

1. 評価項目別の学校関係者評価

〔1〕学習指導と教科指導

- ・様々な特性をもった生徒が在学し、習熟度別や個別の指導が不可欠であるが、個々の状況や学力・能力を見極め、課題に応じた指導を工夫している。
- ・学校行事も学習活動の一環と捉え、生徒主体となって意欲的に学び、体験する気持ちを育み、積極的に参加するよう促す必要がある。

〔2〕生徒指導と生活指導

- ・基本的な生活習慣の乱れから、遅刻・欠席が目立つ生徒があり、改善に努力する必要がある。
- ・地域の方々には、迷惑をかけることも多々あるが、清掃活動に取り組んだり、あいさつができる生徒も増えてきている。更に地域との交流をはかりたい。

〔3〕就学指導

- ・生徒全員進級卒業させることを最大の目標とし、きめ細かな指導にあたっていることは評価できるが、依然として退学者が多いことは残念である。
- ・遅刻者を減らすための早朝登校指導や、欠席者に対する補習・補講など、就学指導に対する体制を強化することが求められる。

〔4〕保護者との連携

- ・学校の教育方針を理解してもらい、保護者への協力を得ることは必要不可欠と捉え、良好な連携が築けている。
- ・遠方より通学している生徒も多いが、不登校など手遅れにならないよう、家庭訪問に努める必要がある。

〔5〕進路指導

- ・就職を希望する生徒については、本校で身につけた専門技術を生かす者も含め様々な職種に進んでいくが、すぐに仕事を辞めてしまう場合もあり、社会人としての心構えが大切となる。
- ・一方で、進学する生徒については、おおむね希望する学校へ合格しているが、ファッションクリエイター科や保育科からは卒業後の進路を変更する者もあり、今後の課題といえる。

[6]募集活動

- ・オープンスクール・体験入学の参加者は増えているが、受験に結びつかないケースも多く、より丁寧に、より魅力的な内容の検討が必要である。
- ・多くはないが、遠方からも本校の教育内容を求めて入学する生徒もあるので、ホームページやブログなど広報活動の更なる充実に努めてもらいたい。

2. 学校関係者評価総評

「愛と誠」を建学の精神とする中央学園高等専修学校は、90年以上の歴史をもち、学校運営や教育活動については、確固たる理念と実践を重ねてきた経緯がある。

今後もより一層、時勢に即した新しい情報をもとに、生徒の実態を分析・把握する努力が求められる。

保護者からの学校に対する要望や意見については、おおむね好評価を得ており、生徒各人のこれまでの学校生活から比べれば、生活態度・学習意欲・学力全般・専門技術の習得・人間関係・将来の目標など伸長もしくは改善されているが、部活動の活性化、検定取得の伸び悩み、清掃活動の不行き届きなどが指摘されるという結果が出ている。

在籍生徒数が少し減少し、中学校側からの中央学園に対する信頼は揺るがないが、生徒募集が難しいことが示されている。入学した一人ひとりの生徒を大切にし、如何なる理由があるにせよ、退学防止に全力を挙げなければならないであろう。

一方で、支援を必要とする生徒や障がいのある生徒の入学は増えており、学校全体で、生徒が安心安全で楽しく学ぶことができる環境をつくっていかなければならない。

高等専修学校は、職業教育はもとより、低学力・不登校・問題行動・コミュニケーション能力・基本的な生活習慣など様々な支援体制が求められることを十分に再認識し、生徒または保護者にとっての最後のよりどころとして、更に確たる地位を築かれることを期待する。

3. 学校関係者評価委員会

- ・卒業生代表 1名
- ・企業 および 関係団体代表 2名
- ・中学校代表 2名
- ・地域住民代表 1名

平成29年度 自己評価書

中央 IT ビジネス専門学校

1. 本校の教育目標

「一人ひとりの命輝く教育を目指して」

- ・ 望ましい社会的連帯感育成の基盤を「愛と誠」に求め、豊かな人間性と誠実な心情を育成する。
- ・ 「蛍雪の誓い」を教育理念の根本に位置づけ、たゆまざる努力により人間的教育を身につけるとともに、進んで自己の可能性を追求しようとする意欲・態度を育成する。
- ・ 高度な技術の習得を目指し、自己を高めようと自主的積極的に努力する態度を育成する。

2. 本年度、重点的に取り組む目標及び計画

- ・ 学習指導の充実ならびに専門技術の熟達と各種検定等への挑戦
- ・ 基本的な生活習慣の確立
- ・ 人権意識の育成
- ・ 進路指導の充実
- ・ 募集活動の強化ならびに五ヶ年一貫教育の確立

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
学習指導	①基礎学力の充実に努める。 ②専門技術の熟達とそれに向けてのゼミナールへの参加を積極的にさせる。
学生指導と生活指導	①「時を守り、場を清め、礼を尽くす」を最重点目標として取り組む。 ②学生の生活実態や心情を理解し、素早い情報の提供による、一致した指導に努める。

人権教育	<p>①「いじめ」をはじめとする、いかなる人権侵害も許さない意識を育てる。</p> <p>②支え助け合う学生集団の育成に努める。</p>
進路指導と学生支援	<p>①最適な進路決定ができる力を養う。</p> <p>②保護者との連携を深め、進路保障に努力するとともに、メンタルケアを含めたサポート支援体制を充実させる。</p>
教育環境	<p>① 学生がより良い空間で学習への感性を磨けるよう、また有意義な学校生活が過ごせるように、安心安全な環境整備に努める。</p> <p>② 清掃活動の意義や大切さを理解させ、校内美化に取り組む姿勢を養う。</p>
募集活動	<p>① 高等学校を定期的に訪問し、本校の内容・特色を説明し、在校生の状況を報告する。</p> <p>② 本学園五ヶ年一貫教育の集大成の場として、中央学園高等専修学校の生徒に対し、内部進学指導を行う。</p> <p>③ オープンキャンパス・学校説明会を数多く開催し、本校をより良く理解してもらおう。</p> <p>④ ホームページやブログの充実に努める。</p>

4. 自己評価と今後、取り組むべき課題

<ul style="list-style-type: none"> ・入学した一人ひとりの学生に対して、丁寧な指導ときめ細かな関わりを持つことを教職員全員が徹底し、今の学生の実態やニーズに合った授業内容や環境を整え、学習面だけに限らずあらゆる面で個々の能力や考え方を伸ばし、レベルアップをはからなければならない。 ・進路指導のさらなる強化が求められ、ボランティアや校外活動・課外活動にも積極的に参加させ、職業観や就職への意識を高める必要がある。

平成29年度 学校関係者評価書

中央 IT ビジネス専門学校

〔 総 評 〕

中央 IT ビジネス専門学校は、近畿大学短期大学部との併修制度を取り入れながら、専門学校生としての技術の習得と、短期大学生としての教養を身につけることを目標としているが、これを両立することは学生にとって簡単なことではない、ということは想像に難くない。

しかし、IT科目・ビジネス科目・近大科目・放課後のゼミナール、それぞれに基礎から応用へと確実にレベルアップしていけるよう、きめ細かな学習指導がなされていること、学業だけでなく様々な体験や経験ができるよう課外活動にも力をいれていること、綿密な進路指導により高い就職内定率を維持していること、などによって、中央学園高等専修学校からの内部進学生は年々増加しており、以前の学校の状況とは良い意味で大きく変わってきていることは、評価に値する。

残念なのは、ITBの卒業と同時に近大の卒業証書を手にしていない学生が少ないことと、外部の高校からの入学がほとんどないというところであり、改善できるよう対策してもらいたい。

○ 学校関係者評価委員会

- ・卒業生代表 1名
- ・企業 および 関係団体代表 2名
- ・中学校代表 2名
- ・地域住民代表 1名

平成29年度 自己評価書

～教職員研修および教職員向け「保育についてのアンケート」結果をもとに～

中央幼稚園

1. 本園の教育目標

「一人ひとりの命輝く保育を目指して」

- ・健康でたくましい心身の形成に努める。
- ・音楽や造形を楽しみ、豊かな感性をはぐくむ。
- ・絵本や物語・図鑑などに親しみ、言葉への興味と想像力を培う。
- ・いろいろな遊びを通して、共感し、つながりあえる仲間づくりを行う。
- ・あらゆる教育課程のなかで、豊かな道德性の育成を図る。
- ・自主性をはぐくみ、確かな判断力を身につける。
- ・安全教育を徹底する。

2. 本年度、重点的に取り組む目標及び計画

- ・園児の基本的な生活習慣の確立
- ・個性の伸長とともに、感性豊かな園児の育成
- ・教師としての資質・能力の向上
- ・家庭との連携、地域社会とのかかわり
- ・危機管理の徹底、安全安心な園づくり

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況	評価
幼児指導 (保育の在り方)	<ol style="list-style-type: none">1. 園の教育目標・重点目標が教職員に周知されている。2. 教職員が幼稚園教育要領を理解している。3. 教育目標・教育要領をもとに、園の教育課程を編成している。4. 教育課程、園児の実態をもとに、指導計画を作成している。5. 施設・設備の点検を行い、園児の活	幼稚園教育要領を根幹に、本園の教育目標・重点目標については、教職員に周知徹底されている。 主任・チーフを中心に、本園の教育課程を編成する。園児の実態に即し、一人ひとりの発達や課題に応じた指導ができるように、年間指導計画に反映さ

	<p>動を支え、かつ安全な環境構成を維持している。</p> <p>6. 園として1年間の保育について評価し、次年度の指導計画につなげている。</p>	<p>せる。</p> <p>施設・設備の定期的な点検を行う。このことが効果的な活用と、園児を守る安全な環境維持に結びつく。</p> <p>年度末には、1年間の保育活動について教職員が自己評価し、保護者の評価も含め分析・考察を行う。全体研究を通して、次年度への展望・方向性につなげている。</p>
<p>幼児理解 (園児への対応)</p>	<p>1. 常に園児の健康・安全に向けた指導・配慮を心がけている。</p> <p>2. 一人ひとりの園児をよく観察し、個性を大切にされた指導・援助を行っている。</p> <p>3. できることは自分ですするという気持ちを育て、身につけてほしい生活習慣の習得を促している。</p> <p>4. 園児の年齢に応じたわかりやすい語りかけや、適切なサポートをしている。</p> <p>5. 園児をほめたり、励ましたりしながら、めあてを持たせ、次の意欲につなげている。</p> <p>6. 職員会議等で、園児の姿や課題を互いに報告しあい、共通理解を図っている。</p>	<p>園児の健康・安全については、日々の指導のなかできめ細かな配慮を心がけている。とりわけ自由お遊び、預かり保育時の事故防止に留意する。</p> <p>基本的な生活習慣の確立、個性や自主性の伸長に努める。前記の目的の達成に向け、園児への指導・かかわり・サポートを日々実践する。めあてを持たせること、励ますことで園児の意欲につなげる。</p> <p>個々の園児の様子・課題については逐一報告され共通理解を得ている。家庭環境を含めたケース会議にまで至ることは少ない。</p>
<p>教師としての 資質・能力</p>	<p>1. 幼稚園教諭として、専門知識や技能を身につけている。</p> <p>2. 教職員全員で、ひとつのチームであることを意識している。</p> <p>3. 個々の教職員が、当番や役割による</p>	<p>それぞれの教職員が、主任および担任・フリーとして、園務分掌・役割を責任をもって果たしている。園が組織として成り立っていることを理解し、一人</p>

	<p>仕事を確実にやっている。</p> <p>4. 教職員は、園児と会話をしたり遊んだりすることが好きである。</p> <p>5. 教職員は、園児のささやかな成長が理解できて、それを喜ぶことができる。</p>	<p>ひとりの能力が合わさり、チーム力として発揮されている。</p> <p>何よりも子どもが好きである。園児の成長を保護者とともに理解し喜ぶことができる。この二点が幼稚園教諭の資質の基幹である。加えて、専門知識や技能の習得が、教諭としての成長につながる。</p>
保護者への対応	<p>1. 日々の取り組みや園児の様子を直接話したり、電話・手紙等を使って保護者に伝えている。</p> <p>2. 保育参観や懇談会を行い、子どもについて保育について家庭でのあり方について、共通理解を得ている。</p> <p>3. 保護者には、丁寧な言葉と敬語を用いて語りかけ、相手の話も落ち着いてしっかりと聞いている。</p> <p>4. 保護者からのさまざまな訴え・要望・意見について、園長や主任に報告や相談をしている。</p> <p>5. 園児・保護者のプライバシーに関する情報については、守秘義務を果たしている。</p>	<p>日々の園児の姿、園の取り組みを多くの機会を活用し直接保護者に話したり、電話、手紙で伝えている。</p> <p>定期的に保育参観・懇談会を実施し、園を開放すると同時に、保護者との連携を深める。そのなかで、保護者の意見・要望を受けとめ、日々の保育に反映させる。</p> <p>定期的に保護者会（運営委員会）が開催される。保護者会をもとにした学校関係者評価を行う。</p>
地域社会との かかわり	<p>1. 地域の方々を園に招いたり、また地域に出向くことで交流を図っている。</p> <p>2. 園庭開放・園行事参加など広く呼びかける。中学生・専門学校生の体験学習を受け入れている。</p> <p>3. 隣接する光竜寺小学校との幼・小連携を積極的にすすめる。</p>	<p>外部講師・教材開発等、専門分野を有する人材や多岐に渡る教材を活用する。中学生・専門学校生の体験学習を受け入れる。関係機関の取り組み（堺まつり、ツリーのまわりでコンサート、出初式等）には、積極的に参加する。</p>

		隣接の光竜寺小学校、近隣の自治連合会、住民の方々と交流を進めている。
研修・研究	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育について、研修できる機会を教職員に保障し、研修への意欲を高めている。 2. 研究保育等園内研修を通して、指導計画の作成、園児とのかかわり方など、保育の向上につなげている。 3. 教材や遊具について、使い方・利用方法の研修を行っている。 4. 障害のある園児、アレルギーへの対応など、今日的課題への理解を図っている。 5. 預かり保育、子育て支援などのあり方について学習している。 	<p>学期ごとに研究保育を行い、教諭としての実践力・資質の向上につなげる。教材や遊具および園児の安全確保に関する研修も随時実施する。</p> <p>管外研修に対しては日時の調整を行い、教職員の参加機会を増やしている。</p> <p>特別支援教育・食育・預かり保育・子育て支援等、今日的課題に関する研修の充実を図る。</p>

4. 今後、取り組むべき課題

- ・教育目標・重点目標と園児実態に基づき、適切な指導計画を作成する。教職員の自己評価・年度末反省、保護者の評価を通して、各クラス・子どもの活動を分析・考察する。その上で、日々の保育活動やクラスづくり、および年間計画や行事の見直しを図る。
- ・保育に新しい考えや取り組みを導入するため、継続した研究・研修を行い指導力の向上に努める。
- ・今後も教職員・保護者アンケートおよび保護者との意見交流会を実施し、互いの改善につなげる。

平成29年度 学校関係者評価

～運営委員会での意見交流、運営委員へのアンケート結果をもとに～

〔保育に関すること〕

「子どもは、幼稚園に行くのを楽しみにしている」

「子どもは、運動会・発表会・遠足などの行事に積極的に参加している」

「先生は、一人ひとりの子どものよさを認めてくれる」

の3項目でA(よくあてはまる)が多くあり、高い評価を受けている。園児は幼稚園に行くことを楽しみに、積極的に行事に参加する、また、教職員は一人ひとりの子どものよさを認めるなかで、園児理解に努めていることが分かる。さらに、自立心の育成を促しながら、目当てを持たせ、ほめる励ます支える保育が成果を挙げていると思われる。

「子どもは、すすんであいさつをしている」

「幼稚園は、家庭への連絡や意思疎通を、きめ細かく行っている」

では、C(あまりあてはまらない)の回答が幾つか見られる。基本的な生活習慣の確立とともに、あいさつは人間関係の第一歩という意識の定着を図りたい。家庭との意思疎通については、直接会っての情報交換を基軸に、電話・手紙を使っての双方向の情報交流が必要である。情報共有に至るには、保護者の方々の話や気持ちをしっかりと受けとめ、保育者としての考えをきちんと話し、共通理解を図ることが肝要である。

〔幼稚園経営に関するもの〕

「幼稚園は、保護者が保育を参観する機会をよく設けている」

「幼稚園では、保護者の運営委員会活動が活発である」

「幼稚園では、子どもに関するプライバシーが守られている」

の3項目で、よい評価を受ける。本園では、保護者参加の各種行事に加えて、保育参観、懇談会を実施している。運営委員の方々のご理解・ご協力により、運営委員会活動も活発に行っている。また、地域の方々も含めて、常に開かれた幼稚園づくりを目指している。個人情報管理、知り得た情報については部外者に口外しないこと等、教職員に対して守秘義務の徹底を図っている。加えて、「施設・設備」では、保育の充実、子どもの安全確保を根幹に、日々の点検を行っている。「文書・事務連絡」においても、今後より適宜の送付・連絡を心掛けていかなければならない。

〔全体のまとめ〕

次年度も「一人ひとりの命輝く保育」を共通理念に、将来に向けて子どもたちの健やかな育ちの形成に取り組んでいく。保護者からの子育て相談のみならず、子育て支援にも強がかかわっていく所存である。「保育・教育はまさにチームプレーである」と言われるなか、教職員一人ひとりの力量の向上に加え、園としてのまとまりで、教育力・保育力を高めていきたいと考えている。